



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
 財団法人日本臨床衛生検査技師会
 発行責任者 小崎繁昭
 編集責任者 蒲池正次、小郷正剛、下田勝二、
 山城元俊、及川雅寛、谷口薫、
 高田秋也
 〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
 ホームページ http://www.jamt.or.jp



第 13 回臨床検査技師実習施設 指導者等養成講習会<東地区>終了!

(財)医療研修推進財団が主催し、当会ならびに厚生労働省が後援する“平成 20 年度第 13 回臨床検査技師実習施設指導者等養成講習会<東地区>”が、日臨技会館において 10 月 16 日から 18 日の 3 日間にわたり開催された。

この講習会は毎年度、東会場、西会場に分けて開催されるもので、今年で第 13 回を数える。東地区の募集定員は 50 名であったが、今回はそれを上回る 80 名の参加者であった。研修内容は、従来“教育学概論”にはじまり“学生指導法”“臨地実習カリキュラム”など、所謂、養成校から実習施設への要望と思える“教育現場の立場から”が中心であった。その他、望まれる技師像、安全管理対策、精度管理・品質管理・・・などであった。

今回のテーマは、実際に学生を指導するのに必要と考えられる項目、加えて検査室管理者としての必要事項を中心とする案を作成した。結果、財団ならびに厚生労働省の承認を受けた形となった。具体的には、東会場は、臨床検査技師法改正の意義、診療報酬改定への対応、病院経営管理から見た検査室、情報化時代におけるパラダイム・シフト<情報化時代の学習を中心に>、遺伝子検査の最前線<LAMP 法を中心に>、品質管理<ISO 認定に向けて>、精度管理とデータ標準化理論と実技、臨床検査における個人情報保護法、労働安全衛生管理、医療事故と技師の責任、チーム医療の実践と課題、今後の検査技師教育<認定制度を含む>、国民の目線に立った望まれる検査技師像、受講者のグループ討議であった。

西会場は、教育現場の立場から、免疫検査の臨地実習、血液検査の臨地実習、病院経営管理から見た検査室、望まれる臨床検査技師像、学生指導法概論、教育学概論、臨床検査の精度管理、患者・職員の安全管理<個人情報保護を含む>、チーム医療の課題と実践、品質管理<ISO15189 の認定に向けて>、および受講者のグループ討議であり、来る 12 月 11 日から 3 日間、倉敷市で予定されている。受講者は 64 名を予定している。

この講習会は従来から受講申込者全員を受講させるものではなく、既受講者は除かれている。しかし、学生を指導するためには、日々進化する臨床検査学の習得は欠くことができない。また、学生の指導基準も変わりうることであり、毎年

の受講希望は、指導者としての積極性を裏付けるものである。更に、東西の講習内容は異なるものであった。本来、講習の目的を達成するためには、統一テーマが必要と考える。今回も同様に東会場と西会場では、若干内容的に異なっていたが、西地区に所属する施設からの受講もあり、この指導者養成講習会の方向性を探る機会となった。

国民のための“臨床検査の職能団体”である日臨技としては、臨床検査技師の質の向上に努力することは当然のことであり、“来るべき世代”のためにも、学生教育を惜しんでは明るい未来は望めない。関連記事 6 ページ



- P01: 指導者等養成講習会<東地区>終了
- P02: 標準化事業解説<2>-1
- P03: 同-2・平成 21 年度精度管理調査<1>・結核研究奨励賞
- P04: 同-3・
- P05: 同-4・平成 21 年度精度管理調査<2>・診療報酬
- P06: 指導者等養成講習会アンケート・国際医療セクター

- P07: エイズキャンペーン
- P08: 百均の電卓で解ける“統計入門”-1
- P09: 同-2・ひとくち英会話
- P10: 臨検小話<ヒトは死んだら所有権の対象になるのか?>
- P11: チョット気になるキーワード<ビジネス顕微鏡>
- P12: 予告<環境問題対策研修会>・編集室